

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 11月 8日

### 【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270104989		
法人名	ラッキー自動車株式会社		
事業所名	グループホーム 陽光の家		
所在地	長崎市三川町924-5		
自己評価作成日	平成26年9月7日	評価結果市町受理日	平成26年11月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
--------------	---

### 【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118番地1
訪問調査日	平成26年10月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

個人の意思を尊重しつつ、安全に安心して笑顔で過せるように心がけています。ゆっくりゆったり、のんびりと自由に、ありのままと掲げている理念に添って実践に活かしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

当ホームは、住宅街の中に自然と溶け込んだ佇まいで、理念の一つである「ありのまま」の暮らしが窺える。又、母体が運送会社経営であり、「移送支援サービス」など入居者の外出の機会作りにも力を入れている。管理者は今年2月に就任し、ケアマネジャーとの連携において「サービス提供の質の向上」の意識があり職員共々一丸となり入居者の支援に努められている。美容師資格を持っている職員による散髪支援や全職員の笑顔で接遇など、入居者・入居者家族や地域住民との交流もあり気軽に立ち寄れるホームとなっている。職員は入居者の思いに寄り添い支えられており、更なるサービスの充実と向上が期待できるホームである。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に繋がるように努力は継続して行っている。	理念である「ゆっくり・ゆったり・のんびり・自由に・ありのままに」を全職員が理解し、日々の支援で入居者の安心・安全・安らぎのある生活が自然と実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や老人会入会など通じて交流が図れるようにしている。高齢になりこれまでのようにいかない面も出てきている。	自治会に加入し、地域の行事には入居者と職員は積極的に参加され、ふれあいを大切にしている。又、地域住民、子供達の訪問で開かれたホームとして交流の場を作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて民生委員や自治会役員の参加を得て、認知症への理解や支援方法など話をする事で理解を得られるように努力を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事等の活動内容の報告や入居者の現状報告と共に、議題を決め率直な意見を聞かせて下さり、サービス向上に繋がっている	事前に参加メンバーには運営推進会議の議題を知らせ、毎月行われている企画内容の報告や取り組み状況で具体的な提言、評価などいただいている。質問、意見などが活発に出る体制作りによってサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談、困難事例があれば健やか支援課へ随時電話相談、問い合わせを行い支援や協力をいただいている。	市や認知症グループホーム連絡協議会等の研修に参加している。又、包括支援センターや連絡協議会から高齢者対象に携帯電話指導の要請があり、同一法人の協力を得て、良好な関係が築かれている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠も夜間のみ行っているが、昼間は自由に入出でき、状況に応じて付添で近くまで出かけることもあります。言語による拘束はまだ見られるが、その都度注意し指導して少なくなってきたりしている。</p>	<p>全職員、身体拘束について理解し、入居者家族との信頼関係で入居者の安全を確保しながら、身体拘束行為自体行わないケアに取り組まれている。現在は研修の場は特に設けていないが、管理者は新人職員に対し日々の支援の中で指導をされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会等で理解を深め、身体のみならず言葉による虐待が行われないよう、日常で気づいた時は注意を行うようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現時点で対応される方はおられないが、研修などへ参加をし理解を深めるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時及び改定時などは、利用者及び家族に理解できるように十分な説明を行い納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所前の訪問時などを利用したり、電話等で相談や話し合いを行っている。又年2回家族会を開催し率直な意見を出していただき運営上反映できるようにしている。</p>	<p>家族会も設立されて新しい入居者家族の紹介や世間話の中で、意見や要望が言える機会を作られている。意見箱を設置されているが、家族の訪問も多くケアマネジャーに直接話をされて、管理者との連携で運営に活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングや朝の申し送りなど、意見交換や提案など受け運営に反映している。</p>	<p>月1回のミーティングや申し送りノートにて意見や提案が出来るように機会を作られている。ケアの充実を図る為、実践しながらの取り組みをされている。</p>	<p>目ごろからのコミュニケーションは図られているが、職員の思いが出せる雰囲気の中で、積極的に管理者から問いかけや聞き出しによって更なる運営に反映されることに期待したい。</p>

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>常勤とパートが半々で、高齢職員が多く良い環境と は言い難い面もあるが、明るく少しでも向上心を持って働けるように努力している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的研修会参加や施設内での指導説明など必要に応じて行い、介護力の向上に取り組んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会参加など通じて勉強会へ参加し実践に生かせるように努めている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時には家族を交えて施設でできる事とできない事などはっきりお話をし理解を得ている。又、要望などもできる限り添えるように家族と共に考え、協力も得ながら安心して生活できるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所申込み時にお話を聴きどんなふうにご過ごすことがお互いの安心に繋がるかなど、要望等と共に施設の決まり事などお話ししている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者とケアマネジャーは、面接や家族の話など伺いし、問題点やサービス利用の是非も含め今必要な支援であるかを考慮し対応している。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは手伝って頂いたりしながら、自立した生活ができるように必要に応じて声掛けや誘導など行い継続できるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いにも寄り添えるように、お話を伺ったり相談にのるなど本人と共に家族の声も傾聴できるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向をお聴きしながらできる限り本人の気持ち大切に保守できるような配慮を心がけている。	場所や人間関係など、絆を大切にし、ご家族の協力を頂きながら、馴染みの美容室に行かれる入居者もいる。馴染みの方が気軽に来て頂けるよう努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状態に合わせた対応を心がけ、其々の思いの代弁者的な立ち位置で入居者同士のコミュニケーションがスムーズに取れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても、見舞いなど通じて相談やできる範囲での支援を行い、人としての繋がりを大切に考え支援している。		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴など本人・家族から聞いたり日常の動作や習慣などもスタッフや家族に確認を取って把握できるように努めている。	高齢化と共に入居者の多くは自分の意思を伝えることが難しくなっている為、入居者全員の把握は職員の連携で情報を共有し本人本位の支援になるよう努められている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その都度、場面場面に応じて話を聴いて過去の情報を集めたり、家族にもその旨を確認するなど把握できるようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや疾病の状態、家族関係など、スタッフや家族から情報を得て把握できるようにしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでの計画目標、そのための支援の在り方などスタッフの意見を聞く。又、家族にも現状を説明し必要な支援等をしたリ要望など聞いている。	ケアマネジャーは本人やご家族の要望を聴きミーティングにて職員の意見を反映した介護計画書となっている。介護計画書に伴う日々の支援は日課表に記入している。	介護計画に沿ったサービス提供は不可欠であり、計画書を意識した記録のあり方を再考し、取り組みに活かしていくことに期待したい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては何度か説明を繰り返し行っている。誰が見てもわかるような記述をし、計画の実行に支障がある状態などでは詳しく記載し、より良い状態での生活ができるようにとお願いと指導を行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や訪問など本人の体調を優先的に考えながら、家族などの要望にも対応させていただいている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館やふれあいセンターなどでのイベントなどでは参加できるように支援するなど、地域での生活を楽しむように支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望に沿ってかかりつけ医への受診や往診をして頂いている。スタッフ付添も行うなど、状態の把握や日常の状態報告を行い必要に応じて指示を仰いでいる	かかりつけ医の受診支援は職員が対応し、変化があった場合はご家族に連絡する体制を作られている。又、往診支援として協力医が月1回訪問されている。協力歯科医も週1回往診され口腔ケア、口腔リハなど適切な支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のスタッフはいない。居宅管理指導を受けて入居者の状態を報告し相談や主治医への指示を受けるようにして健康管理ができるようにしている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供や直近のアセスメントなど提供し、安心して加療できるようにしている。退院後もケア会議などへ参加し悪化防止に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になった場合、医師の指導や家族の意向を伺い合意を得ながら支援策を講じている。地域医療を担っている医師等にも相談するなどしながら支援している。	現在の事業所の体制から看取りは困難であり、ご家族へは説明をされている。なるべくホームで過ごしていただくように努力されて医療関係との連携と相談を重ねながらの支援となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医・家族・管理者への速やかな連絡体制の確認、勉強会を行い救急時の対応など勉強し慌てずに行えるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食等の完備避難経路の確認など日常を通じて話をするなどして、安全に避難誘導できるように自主訓練を行っている。	毎日、通報訓練を行い、総合訓練も定期的に行なわれている。現在、スロープ等の避難経路を行政と検討されている。顔写真入り名札には個人情報記載され即対応できる体制が作られている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを忘れず尊厳をもって接するようにとスタッフにも常に話している。しかし時々命令的になったりぞんざいな声掛けになることがありその都度注意している。 個人情報の書類等は事務所内に厳重に保管している。日々の支援の中でプライドを傷つけないように配慮されている。研修にも参加してもらい接遇などのレベルアップを考えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心身に危険が及ばない限りは、本人の意思を尊重し希望に添えるように努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとは団体生活上最低限必要であるが、基本的には1人1人のペースを把握しながら支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗濯された清潔な衣服の提供をしている。季節ごとの服の入れ替えなども行い、気持ちよく過ごせるように支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べやすい状態での提供や必要に応じての減塩・カロリー減など行いつつ食べて頂いている。食器の片付けもできる範囲で行って頂いている。 遠方の入居者家族からの新鮮な野菜などの提供もあり、調理専門職員が味付け、彩りなど工夫されている。リビングの一角にキッチンがある為、調理の音や匂いで五感が刺激され入居者は積極的にテーブル拭きなど参加されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・飲水チェックなど行っている。夏場はゼリーなどにして摂り易く工夫し提供している。

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケア実施。必要に応じて家族了解のもと訪問歯科受診で清潔確保と健康管理を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>食事や外出前などトイレ誘導も慣習化され、声掛けなど行うことで自立した排泄が行えている。</p>	<p>入居者は自立されていてリハパンは2名、他は布パンツにパットで過ごされている。日中は、排泄チェック表や入居者の行動を観察し声掛けによってトイレ誘導を行っている。夜間はセンサーで行動が把握され、見守り支援されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤等の服薬と共に飲食、運動などで自然排便を促して行けるようにしている。また食物繊維の多い食材や乳製品を提供し便秘解消につながるようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>希望に沿った入浴は行えていないが、隔日入浴を行い気持ちよく過ごして頂けている。</p>	<p>入浴日は隔日で一日4、5名が楽しめる支援となっている。現在は拒否される入居者はいないが無理強いはない。又、行事ごとに季節を感じ取れる工夫がなされている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>眠れず落ち着かない時はリビングでしばし過ごしたり、眠くなるまで相手をするなどしている。季節に応じた室温調整を行い気持ちよく過ごせるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬防止に努めながら、副作用や効能など個々の薬に注意をし、状態変化に努めるようにしている。</p>		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援やドライブなど外出の機会を増やすようにしたり、家族もお誘いで外出なども応じられるように健康管理に努め、気分転換になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	早めの申し出や希望には添えるように努めているが急な申し出には添えない事もある、家族の付き添いがあればいつでも出かけられている。	法人の介護タクシーを利用し、普段行けない場所にも出かけている。入居者の強い要望で添えない場合は、ご家族に相談し協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預り金として日常の買い物代をお預かりし、必要な物品の買い物に当ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話など希望があれば家族の了解のもと自由にできるように対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いながらも楽しい我が家、時々大声で叫ぶ人もいるが、自分の部屋では落ち着かない様子でリビングに集まって過ごされている。廊下も狭く西日で暑いが、明るく生活音が響く中で安心されて過ごされている。	玄関を入るとリビング兼食堂で長椅子には入居者の座布団により指定席が自然と作られている。ワンフロアで開放的な共用空間となっており、窓からも程よい光が射し込み、極端な温度差や空気のよどみもなく、家庭的な環境の中ゆっくりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席をそれぞれが確保し自由に行き来しながら話をしたり過ごされている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で使い慣れた家具などで落ち着けるように工夫している。	ベッド、クローゼットなどホーム提供である。各居室とも形態の違いはあるが、思い思いの品を持ち込まれ入居者の個性的な部屋が作られている。又、整理整頓がなされているが、生活感が窺え居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活ができるようにしている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない